

「会長の任期をおえるにあたり」



会長としての任期がこの3月で終了いたします。この間、事務局や役員の先生方に助けられ、会員の皆様に支えられた3年間でした。関係者の皆様に感謝いたしますとともに、お礼を申し上げます。

さて、日本体育学会の法人化にともなう様々な変化によって、それまで日本体育学会を支える地方学会は、独立性の高い地域協力学会へと立場が代わりました。そのため、地方学会によっては、運営や存続に大きな影響がでたところもあります。北海道体育学会は、永年にわたり独立性の高い地方学会として活動を継続してきました。そのおかげで、地域協力学会となった今も変わらず活動ができております。

しかしながら、私たちにも課題がないわけでは

会長 神林 勲（北海道教育大学札幌校）

ありません。今後の会員確保や予算の効果的配分などについて、検討を進めなくてはなりません。今年度はコロナ禍により、学会の運営や活動にはオンライン（ZOOM）を積極的に導入いたしました。そのオンライン導入により、予算節約や事務局・役員の負担軽減というメリットも得られました。コロナ禍の状況を見定めつつ、オンラインの良い面を活用し、今後の学会運営・活動に利用していければと思います。

最後になりますが、次年度に延期になりました70周年兼第60回記念大会は、計画通りに対面実施で開催する予定で準備が進んでいます。記念大会で会員の皆様と有意義な時間を共有できることを切に願い、3年間の任期を終えるご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

「コロナお見舞い申し上げます」

コロナ禍の下、皆さまにおかれましては学会活動にご協力を賜りまして御礼を申し上げます。冒頭からではございますが、くれぐれもご自愛下さいませ。

今年度は予定したほとんど事業が異例づくめの中で行われました。メール審議となった2回の総会、そして、ホテルでの記念大会からリモート開催となった学会大会などなど…。役員会でも議論のほとんどが「どうする総

理事長 石澤 伸弘（北海道教育大学札幌校）

会？ どうする学会大会？」であったと記憶しております。ただ、そのような前例にない学会運営の中、役員の皆さまにはそれぞれの役割を十二分に果たしていただき、全ての事業が成功裏に終了することができました。本当にありがとうございました。

年度末に入り、新年度の準備も始めなければなりませんが、果たして事態は好転するのでしょうか？ オリパ

ラは開催されるのでしょうか？ これらの答えはまだまだ闇の中です…。規制づくめの日常に疲弊感も増すばかりですが、「明けない夜は無い…」との言葉もあります。体育・スポーツの力を信じて、夜明けを待ちたいと思います。繰り返しになりますが、皆さまくれぐれもご自愛下さい（写真右が筆者）。



写真で振り返る北海道体育学会 特別大会



今年度の大会本部は、北海道教育大学サテライトの教室におかれまして。

石澤理事長と関大会委員長が、密にならぬようしっかり距離を開けて大会運営に当たっていただいております。

北海道体育学会特別大会傍聴記

柴田 啓介（酪農学園大学）

本年度の学会大会は Web 会議システム（Zoom）を使用して開催された。発表演題数は、口頭発表 8 演題、ポスター発表 2 演題の合計 10 演題であった。

若手研究者発表は梅村拓未さん（北海道教育大学大学院）と佐々木優さん（北海道教育大学釧路校学部生）の 2 名であった。梅村さんからは「教職経験豊富な小学校教師の体育授業における指導技術—授業計画時の意識および授業実施時の子どもへのかかわり—」という演題名で、教職経験豊富な教員は授業の中で子どもの運動に対する意欲や変容した姿、単元全体の構想を重視していること、子どもたちに問いかけ説明させる機会が多いことが報告された。佐々木さんからは「スポーツ技能における“免疫性”の獲得に関する事例的研究—アイスホッケー選手 T の体験流の分析—」という演題名で、国際大会に初めて出場した T 選手が実力を発揮できない状況に陥ってから試行錯誤して次第に本来の動きを取り戻すという、“免疫性”を獲得した過程が紹介された。若手研究者賞は、梅村さん、佐々木さんの両名に授与された。

森博隆先生（北海道教育大学大学院）からは「チーム型長距離走の授業に関する一考察」という演題名で、学校で実施されるチーム型長距離走の 3 つの形態（直接繋ぎ走型、間接繋ぎ走型、併走同着型）について、いずれも様式の獲得にとどまって限定的な学びとなっているとの見解が示された。清野宏樹先生（北海道釧路養護学校）からは「知的障害を伴う肢体不自由のある生徒たちが学ぶ「空手道」の授業」という演題名で、サンドバッグやパンチングミット、新聞紙を使用して突きや蹴りの練習を工夫して実施することで生徒たちが空手の臨場感に触れることが出来たことが報告された。山本悟先生（北海道教育大学釧路校）からは「開脚とびの発生を促すほう助用具」という演題名で、開脚とびにおいて自作のほう助用具（通称：おまんじゅう）を使用することで、“とび箱の向こう側へいく”技術の獲得が容易になることが紹介された。阿部陽輔先生（北海道教育大学大学院）からは「改良版 Goalkeeper-specific reactive agility test

（G-RAT）の信頼性と判別能の検討」という演題名で、自身が開発したゴールキーパー用のアジリティテスト

（G-RAT）の改良版の信頼性と判別能を検証し、中程度の信頼性と判別能があることが示された。板谷厚先生（北海道教育大学旭川校）からは「積雪の増加が幼児の外遊びに与える影響」という演題名で、幼児を対象に積雪量の少ない時期と多い時期における園庭での活動量データと位置データを測定し、積雪量の多い時期は雪山エリアと除雪・圧雪エリアでの活動が増加したことが報告された。石橋勇司先生（北海道教育大学大学院、札幌スポーツクリニック）からは「小学生の立位姿勢の型と生活習慣との関連」という演題名で、調査した小学 5 年生の約 8 割の立位姿勢が不良であったこと、不良姿勢群は良姿勢群と比較して運動時間の得点が有意に低い傾向にあったことが示された。

ポスター発表では、梅田千尋先生（札幌あいの里高等支援学校、北海道大学大学院）から「知的障害特別支援学校保健体育科における自立活動の理念を生かした持久走の開発と評価：教育目標・教育内容の創案」という演題名で、保健体育科と自立支援の両方の視点から持久走の教育目標を定め、教育内容を創案したことが紹介された。高瀬淳也先生（北海道教育大学旭川校）からは「体育の授業における動きのポイントの発見を目指した事例研究—中学 1 年生のゴール型における動感画を取り入れた授業実践から—」という演題名で、バスケットボールのセットシュートを練習する際に生徒が動感画を描くことがより多くのポイントの発見に有効であることが報告された。

オンラインでの開催は初めてであったが、滞りなく発表が行われ質疑応答も活発に交わされた。ただ、記録に残らない部分での情報交換（会場での名刺交換、フロアでの質疑応答、懇親会での懇談など）がオンラインでは困難であるというのも実感した。来年度は対面での開催が実現することを祈りつつ、Zoom から退出した。

「お礼と抱負」

梅村拓未（北海道教育大学大学院）

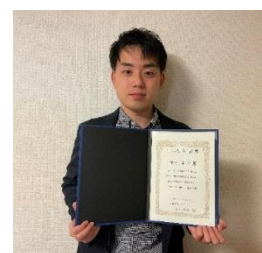
この度は、北海道体育学会特別大会におきまして若手研究者賞を受賞することができ大変嬉しく思っております。つきましては日頃から学会運営に携わっている研究者の皆様、共同研究者の皆様、調査にご協力いただきました各学校の教職員の皆様、日頃からご指導いただいております中島寿宏先生にこの場を借りて厚くお礼申し上げます。

本大会で発表させていただいた「教職経験豊富な小学校教師の体育授業における指導技術に関する研究」は、修士課程の集大成として取り組んできたものでした。教師の指導技術はこれまで多くの研究者が取り組んできたテーマではありますが、私は授業づくりにおける意識および授業場面での子どもとのかかわりという2つのアプローチから検討することを試みました。

教職経験豊富な教師は「子どもの姿」を中心に据えた授業づくりを意識し、授業場面では多くの問いかけによって子どもの姿を捉えており、子どもの課題意識を引き出していました。今回、多角的な視点から教師の指導技

術の特徴を捉えようとしたことによって、授業が上手いとされる教師の意識や子どもへのかかわり方の一端を明らかにすることができたのではないかと思います。しかし、本研究で調査することができた部分は、あくまで教師の指導技術の一側面であるため、今後は単元や授業内容を統制した調査によってより詳細に検討を重ねる必要があると考えております。

私は北海道教育大学の3つのキャンパスで学生を経験させていただき、これまで多くのことを学ばせていただきました。これからも学校現場で奮闘する先生たちや多くの子どもたちにとって役立つような研究を続けていく所存です。今後も北海道体育学会での活動も含めて、引き続き研究活動に邁進して参りますので、厚いご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



「若手研究者賞受賞にあたり」

佐々木 優（北海道教育大学釧路校）



この度は、このような名誉ある賞をいただき、大変嬉しく思っております。選考委員の先生方に心より御礼申し上げます。

また、本研究を進めるにあたり、指導教員の山本悟先生をはじめ、被験者として協力していただいた方、様々な方々に支えられたおかげでこのような賞をいただくことができました。さらに、このような状況下で学会を開催していただいた運営の皆様のおかげで大変貴重な経験をすることができました。本当にありがとうございました。

今回発表させていただいた内容は「スポーツ技能における“免疫性”の獲得」に関する事例的研究です。あらゆる外的・内的環境の妨害に対して練習や心構えなどを通してどういった免疫を獲得するのか、その内実を優れたアスリートの体験流の分析から明らかにする内容です。

今回の研究では、ユースで代表経験のある女子アイスホッケー選手にインタビューを行いました。国際大会での雰囲気にもまれ、自身のパフォーマンスを発揮できなかった経験を述べてくれました。この事例から、状況に対して強く意識が働いてしまい上手く切り替えが行うことができなかったと推察しました。しかし、被験者は、その後自分自身に意識を働くことができ、過度に状況に意識がせず、普段のパフォーマンスを発揮することができたと考えられます。結果、“免疫性”の獲得に関して自分に向く意識と状況に向く意識が上手く切り替えが行われているという内実がわかりました。

今回の経験を糧に、今後も体育・スポーツの発展に寄与できるように全力で努めてまいります。まだまだ至らない点も多いですが、どうか引き続き、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

研究委員会活動報告

研究委員長 越川 茂樹（北海道教育大学釧路校）

本年度の学会大会は、コロナ禍にあつて初めてのオンライン開催となりました。北海道における体育・スポーツに関する研究交流の火をたやさないことは、本学会の使命に関わることを考えます。今後も困難に直面した際には、互いに知恵を出し合い、工夫を凝らして乗り切ることができればと思います。

さて、今回若手研究者賞には、2題のエントリーがありました。コロナ禍の中応募していただいたことに感謝いたします。今後ますます研究に励んでいただきたいとの思いを込めまして、お二人に若手研究者賞を授与することとなりました。お一人目は、梅村拓未氏（北海道教育大学大学院）です。題目は「教職経験豊富な小学校教師の体育授業における指導技術―授業計画時の意識および授業実施時の子どもへのかかわり―」です。この研究は、授業計画時と授業場面の両面から指導技術を抽出す

るという視点と研究方法の独自性が評価されました。また、非常にわかりやすくまとめられたスライドにより発表していただいたことも評価されました。お二人目は、佐々木優氏（北海道教育大学釧路校学生）です。題目は「スポーツ技能における“免疫性”の獲得に関する事例的研究―アイスホッケー選手 T の体験流の分析―」です。この研究は、「免疫性」という点に着目したことについて斬新性が認められました。また、スライドが工夫されていたことも評価されました。今後も現場に還元できるような地道に研究を継続していくことを願っています。

最後に、北海道体育学会 70 周年兼第 60 回大会記念「研究助成」の対象研究の成果発表を令和 3 年度第 60 回記念大会において行っていただくこと、ならびに若手研究者賞の基準について、令和 3 年度に限り「暦年度において満 31 歳未満の者」とすることをご報告いたします。

編集委員会活動報告

編集委員長 永谷 稔（北翔大学）

まずは、無事第 55 巻が発刊できましたこと、感謝申し上げます。

本巻は、研究ノート 1 編、実践研究 5 編、計 6 編の掲載となりました。投稿頂きました著者の皆さま、そして、査読をして頂きました皆さまにはこの場をお借りして深くお礼を申し上げます。投稿数自体は 14 編ありました。昨年度からの継続審査も 3 編あり、合計で 16 編の審査を行いました。昨年に引き続き、非常に多くの投稿を頂いたことは喜ばしいことでありましたが、残念ながら不掲載が 4 編、取り下げが 2 編、継続審査が 4 編となりました。

昨年末、懸案でありました投稿規定の改定がなされ、電子メール投稿、著作権譲渡、掲載料などの項目が整理されました。論文審査の申し合わせとしては、今年度から、編集委員による審査プロセスに回すかどうかの合議（クイックリジェクト・エディターキック）を導入して

おります。そして、英文抄録のネイティブチェックについては義務化しないまでもコーディネーターによる確認を行い、また、投稿時期についても 3 月末でなく通年とすべきかなど合わせて引き続き検討を行っております。次巻においても、多くのご投稿いただけるよう、そして、できるだけ多くの掲載となり、充実した学会誌となるよう、編集委員会中心に議論を重ねていきたいと思っております。

最後に、本年度をもちまして、編集委員長の任が解かれることとなります。当初は不慣れななか、委員や役員の方々の皆さま、投稿者と査読の先生方、そして印刷所のお力を借りながら、3 年間無事発刊することができました。ただただ皆さまへの感謝を申し上げます。ありがとうございました。引き続き、本学会誌の充実、発展を祈念しつつ、まだまだ課題は残されておりますので、微力ながら支援していきたいと思っております。何卒よろしく願い申し上げます。

広報委員会活動報告

広報委員長 高瀬 淳也（北海道教育大学旭川校）

昨年4月から、小出先生の後任として委員長を仰せつかり、早1年が過ぎようとしています。しかし、この1年は、ご存じの通り、新型コロナウイルスの影響で、記念大会が延期、学会大会はオンライン開催となったため、広報委員会のメインとなる活動の場がなくなってしまいました。

前任の小出先生が、広報委員会の方針として、会員以外の「外への発信」を打ち出しました。委員もその実現に向けて試行錯誤し、昨年度、北海道体育学会の会員数の増加のきっかけになればとポスターを制作しました。しかし、今年はそのをご覧いただく機会もなく、活動が大変難しい1年間となりました。

次年度は、今年度延期となった記念大会を予定してお

ります。本原稿を執筆している1月8日段階では、オリンピックの開催すらあぶないのではないかと…という話も聞こえてきます。大きなイベント後に、急に学会活動がさみしくなってしまう…という話を耳にすることはありますが、大きなイベントすら開催できないのは、本当に寂しい限りです。

記念大会が開催されることを信じ、残り期間が僅かの広報委員として、会員となる新しい仲間を増やしていく活動に取り組んでいきたいと思っております。

広報委員会としてできることがありましたら、何なりと申し付けいただければと思います。せっかくですので、入会のポスターもニュースレター12号の最終ページに掲載させていただきます。

事務局より

木本 理可（藤女子大学）

平素より学会活動にご協力を頂き、誠にありがとうございます。本学会幹事として事務局業務を担当しております木本理可（藤女子大学）と申します。

2020年は新型コロナウイルス感染症の拡大が急激な変化を社会にもたらし、事務局業務につきましても、従来通りに行うことができない場面に多く直面しました。4月に行われた第1回役員会のZoomによるオンライン化に始まり、5月の臨時総会および12月の総会はメーリングリストを用いた方式となりました。昨年度から大会会場でお渡しさせていただいている学会誌も、大会のリモート開催に伴い、今年度は皆様に郵送させていただきましたので、もしまだお手元に届いていない場合は、ぜひ事務局までご連絡ください。このように状況が刻一刻と変化していく中で、会員の皆様には最新情報がわかりにくいなど、ご不便をおかけしたと存じます。この場を借りてお詫び申し上げます。また、来年度より役員

が改選となりますが、引き続き当学会の活動にご理解ご協力賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2021年度の本学会の事業としては、今年度から延期となりました北海道体育学会70周年兼第60回記念大会の開催が2021年12月4日・5日に予定されております。大会では、通常の口頭発表・ポスター発表・シンポジウムなどに加えて、2019年度の研究助成対象となった3つの研究課題に関する成果発表も行われます。このコロナ禍が少しでも早く収束し、ぜひ多くの会員の方々に安心してご参加いただけることを願うばかりです。その他に計画されている事業につきましても、今後の状況を踏まえながらの対応になることと思っておりますが、会員の皆様には学会HP (<http://www.hspehss.jp/>) やメーリングリストを活用して、速やかにご連絡させていただきたいと思っておりますので、随時ご確認いただけますと幸いです。

私のこれからの生き方

北海道教育大学附属札幌小学校 須合 幸司

高校時代の記憶は、トイレの中にいた記憶しかありません。私は、高校1年生の途中から、お腹の調子が悪くなりました。寝ている時以外は常に便意があり、便秘と下痢を繰り返します。登下校するにも、コンビニのトイレを8軒以上はしごしながらの通学でした。病院に行くと、「過敏性腸症候群」という病名を告げられました。環境の変化など、ストレスが原因だと言われています。私は、この辛さを紛らわせるため、授業中はずっと寝て過ごしました。そして、休み時間になるとトイレに駆け込むという日々が二年間続きます。このような生活のため、成績は5段階評価で2。留年と隣り合わせの日々でした。

病院で出された薬を飲んでも効果が出ないので、自分で治し方を調べました。その時、一つの研究論文に目が留まります。そこには、キウイフルーツに含まれるアクチニジンというたんぱく質分解酵素が、腸内環境を良く

する可能性があるという実験結果が示されていました。その日から、キウイフルーツを毎日二個ずつ食べるという自分の体を使った人体実験。結果は、一週間でほとんど症状がなくなるという信じられないことが起こりました（現在この研究は、ヒトを対象とした介入研究が進められています）。中学校の頃からトレーニングや人体の構造、料理や食べ物に興味があり、そして、この経験が加わり、管理栄養士の道を歩むきっかけとなりました。

人は体調が悪くなると、すべての能力が低下し、勉強や運動だけではなく、生きる気力まで失われていくことが身をもって体験しました。私は、一人ひとりが持っている才能をきちんと発揮できる方法を探り、生活習慣が人体に与える影響を研究していきます。そして、それを出来るだけ多くの人に伝えるために、私はこれから生きていきます。

自分らしい取組に向けて

森 靖明（北翔大学）

このようにニュースレターに寄稿するのは、2017年2月の第8号のシンポジウム傍聴記以来です。当時は、初めて学会で口頭発表をさせていただいた時で、所属は札幌西高校の定時制の教頭でした。現在は大学の教員として主に保健体育科の教員養成に携わるようになってまもなく2年目が終わろうとしています。

さて、今年度はまさにコロナ禍で世の中が大変になっていますが、オンライン化のおかげで自らのICT活用能力がほぼ強制的に高められるなど、個人的にはプラスの面も少なからずありました。これまではたまにしか顔を合わせる事ができなかった各地の保健体育科教育の仲間と1~2ヶ月ごとに画面越しとはいえ情報交換ができることはもとより、オンラインの授業スキルが多少なりとも身に付いたことは今後に生かせると考えています。私は対面授業でもグループによる意見交換や課題解決に向けた討議を多く取り入れていたのですが、オンライン

上で少人数のグループを作ってその中で話し合わせた時の方が、対面の時よりも議論が深まっていると感じている学生が多いことは新鮮な発見であり、今後もさらにうまく活用したいと考えています。

元々学校現場の一教員でしたので、研究ということにかけては皆さんのレベルには追いつきようもないのですが、新しい職をいただいて2年も経つので、最近は何か自分らしい新しい取組ができないか考えています。現場の教員と教育行政、大学教員と3つの職を経てきたことぐらいしか自分の強みはないので、課題意識はあるが、忙しくて授業改善になかなか取り組むことが出来ない現場の先生の授業改善のコンサルティングのようなことを構想しており、実践後は、その取組を本学会でも紹介させていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

編集後記

本当なら、東京オリンピック・パラリンピックが開催されるはずでした。本当なら、東京オリンピックのマラソンと競歩が札幌で開催されるはずでした。本当なら、NASAの有人探査船「マーズ1号」が火星に向けて出発するはずでした(映画『ミッション・トゥ・マーズ』)。本当なら、NatureとScienceに論文が1本ずつ採択されるはずでした。本当なら、サワイTPC前総監が第二期大気改造システム始動式出席のために火星に向かうはずでした(テレビ『ウルトラマンダイナ』)。本当なら、すすきのに地上6階地下1階からなる自社ビル(地階~2階は飲食店ゾーン)が建つはずでした。本当なら、北海道体育学会70周年兼第60回記念大会が開催されるはずでした。本当に、「本当」とは違う1年でした。ならば、この1年で起こったことは「本当」ではない何か？

ニュースレター12号の発刊です。作成に協力頂いた皆様に心より御礼を申し上げます、本当に。

(一部「<https://ja.wikipedia.org/wiki/2020年>」より改変引用)

広報委員 瀧澤一騎

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

ご多忙の中、原稿をお寄せいただいた先生方どうも有り難うございました。感謝申し上げます。

北海道体育学会ニュースレターNo. 12 令和3年1月28日発行 広報委員会委員長 高瀬淳也

是非ご覧下さい 北海道体育学会公式ホームページ <http://hspehss.jp/>

**北海道体育学会
入会のお誘い!**

私たちと一緒に運動やスポーツに関わる研究をしてみませんか？
北海道体育学会は、毎年、道内各地で実施しています。→

年齢に合わせたトレーニング方法は？

健康・体力を維持するには...

様々な分野の
様々なスタイルの研究が、
会員により発表されています。

体育の授業をどう展開するとよいか？

スポーツ選手に適した食事とは...

体育、スポーツ、健康、体力など興味のある方は、学会ホームページをのぞいてみてください。

ホームページアドレス (<http://www.hspehss.jp/>)

北海道体育学会
Hokkaido Society of Physical Education, Health and Sport Sciences

事務局 北海道教育大学札幌校 芸術体育教育専攻内 中島寿宏
メール: office@hspehss.jp 電話: 011-778-0967